

暮らし、地域をつなぐ[ターンズ] Vol.09 夏

地方だから住める
あんな家、こんな家!

URNS.



URNSな人々
アートディレクター
北川フラム

都会よりも広くてゆたかな家と暮らし

地方のイマドキ 住まい事情

[セルフビルトの木工房
山梨県北杜市]

[商店街のなかのシェアハウス
大阪市弁天町]

[セルフリノベーションの雑貨店
福岡県糸島市]



〈連載〉若者よ、地方をめざせ！

vol.1スペシャル対談 内田樹×藻谷浩介

地方のシェアハウスに住もう 大阪府池田市／岡山県美作市／長野県長野市／北海道札幌市

盛り上がる、地方のリノベタウン 福岡県北九州市／栃木県宇都宮市／山形県山形市ほか



京都府京都市

リノベーション町家

京都でミニマムに 暮らす

二宮 鉄平さん、みさきさん

京都に移住した福岡出身の鉄平さんと福島出身のみさきさんが永住を決めた家はまさしく『ザ・京都』な町屋でした。

文：高橋 誠 写真：福田磨弥

土間や縁側のある家に 昔からあこがれていきました

京町屋の再生を手がける建築会社「八清」。以前からこの八清の物件に興味があり定期的にチェックしていたという一宮夫妻。

「当初は家を買うつもりはまったくなく（笑）、この家で開かれたワークショップに参加したことが購入するきっかけでした」

夫の鉄平さんは福岡出身、一方妻のみさきさんは福島出身だ。鉄平さんの就職した東京の会社が京都に移転し、そのまま京都に移住することになったという。ちなみにみさきさんも、同じ会社に勤務している。

「採光がよく、外とつながっている感じで圧迫感がないんです。中に入った瞬間、この家だ！と思いました」と鉄平さんは話してくれた。

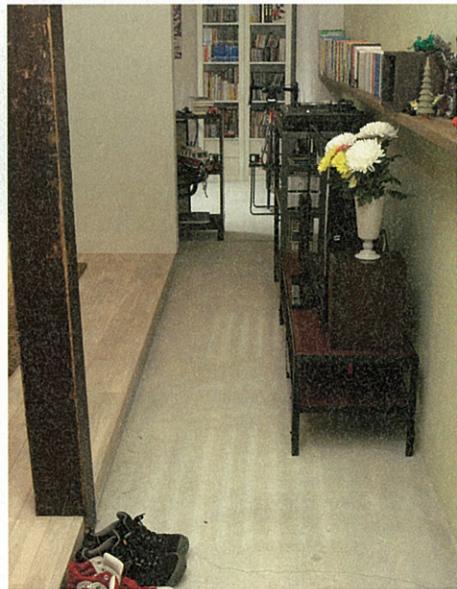
みさきさんの“決め手”となつたのは、町屋のリノベーションハウスにはめずらしいカウンターキッチン。町屋の風趣は残しつつも、自分たちに合っています。東京に比べて時間がゆっくりと流れているように感じますね。町なみが好み一目ぼれしたという。

きで、ぶらっと近所を散歩するだけでも十分楽しいんです」

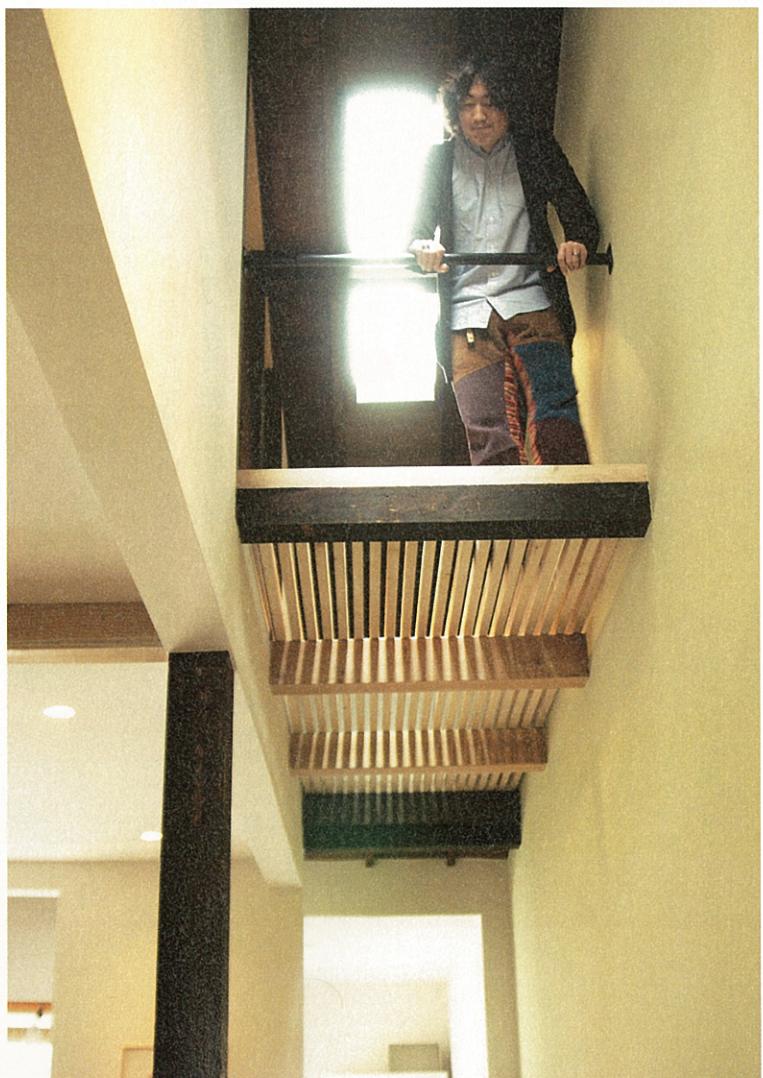
幼いころから土間や縁側のある日本家屋が好きだったという夫妻。どうせ京都に住むなら、“ザ・京都的な土地や家に住みたいねと考えていたところ、この家に出会つた。



Le Petit Mec (ル・プチメック)
☎075-212-7735

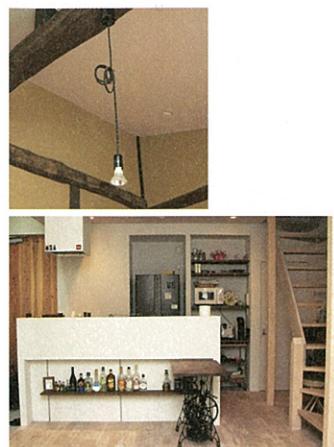


吹き抜けの高い天井。玄関上に位置する天井部分の大きな窓からは十分すぎるほど明るい採光。2階からは内ベランダのような造りになっており「今日のご飯なに～？」なんて会話が日々飛びかっている。

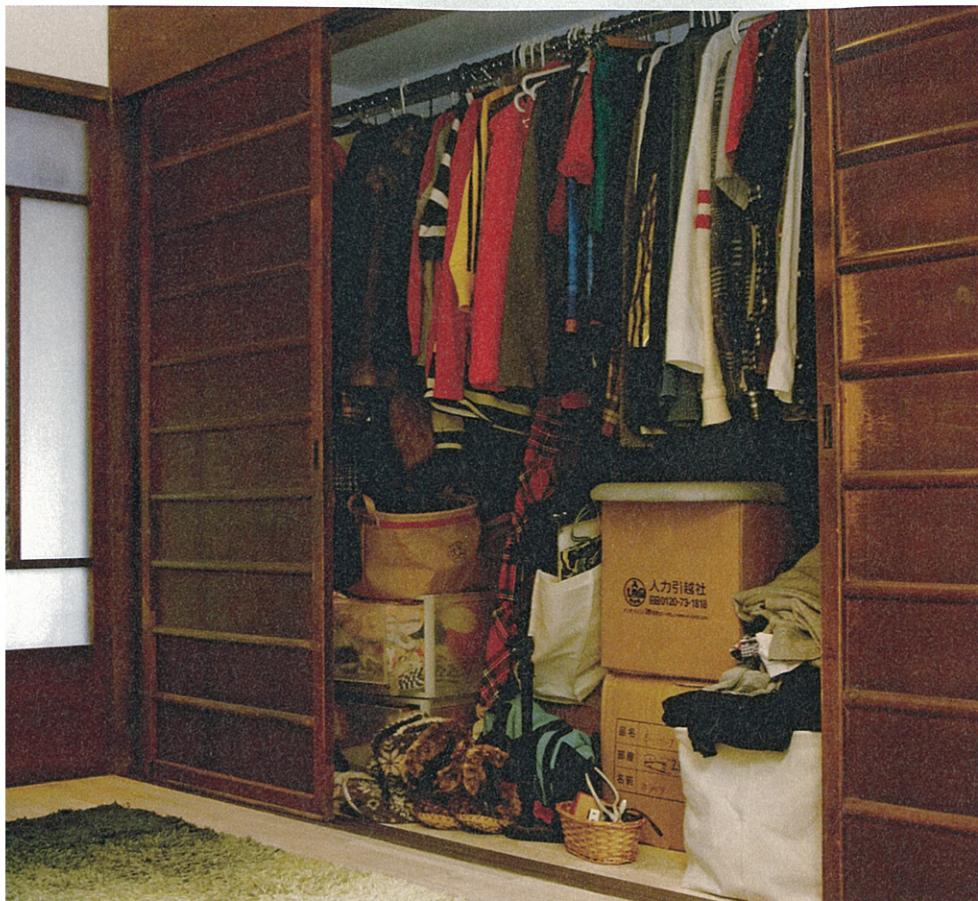


1階奥のスペースは土間になっており、靴のまま上がれる。自転車のメンテナنسスペースにするのもよし、ライブラリースペースにするのもよし、夢がふくらむ。明るい光が入るよう各所に工夫をこらした設計だ。

ライフスタイルまで変わる 景観と居心地のよい家



みさきさんお気に入りのスウェーデン式カウンターキッチン。料理しながらコミュニケーションできて、夫婦仲も円満だとか。サイドテーブルは、鉄平さんの実家にあったアンティークのSINGERミシンをリメイクしたお手製。



納戸を改装したクローゼット。衣装の多いみさきさんも満足の大容量スペース。テレビの横には鉄平さんの趣味のLPや本が並ぶ。大人の遊び心がいっぱい！

この家の最大の特徴は、玄関からリビングを囲むようにある土間。二面に大きな窓があり、明るく開放感のある空間で、吹き抜けの天井がさらに広く明るくみせてくれる。

早目に起床し、日のあたるリビングでお気に入りの松栄堂の香をたき、ロックやH—P HOPを聴くのが至福の時間だという鉄平さん。同じ会社に勤める2人は、30分かけて町なみを楽しみながら毎日一緒に出勤するという。このあたりは西陣織の工房が多い地域で、古い長屋や小さな寺院がたくさんある。

「通勤路にある『ル・プチメック』というパン屋さんがとくにお気に入りで、ここで毎朝パンを買って会社のデスクで食べています。30分ほど歩くとちょうどおなかがへるんですね。仕事が終わると、以前はよく飲みに行ったりしてい

く家に帰りたくて。家の居心地がいいと、ライフスタイルまで変わりますね」

休日にはお弁当持参で散歩に出かけることが多いという2人。京都御所や銀閣寺、竜安寺まで足を伸ばすことも。

「お寺に行く、というよりは公園へピクニックに行く感覚ですね。有名な寺院もあまりに身近なので、観光シーズンの人ごみには、あらためてビックリします（笑）」

ベランダが向かいや隣の家と向き合うようにできている町屋では、洗濯物を干すたびに「近所さんと顔を合わせる。「ええお天気やね」今日は洗濯物がなかなか乾かへんな」と、なんて会話が飛びかうこともある。町屋暮らしの魅力だ。こうも、町屋暮らしの魅力だ。こういった「近所さんとのコミュニケーションから、あらためて地域の人とのかかわり方にについて考えようになつた」という。若い2人がつくる新しい町屋スタイルがこ

先輩に聞く！

コミュニティづくりの ノウハウ

「よそ者は受け付けてくれない京都？」の
イメージを一掃する、あたたかくて人間らしい
昔ながらのご近所づき合いがここにはありました。



『お焚き上げ』がきっかけに

お隣やお向かいさんにご挨拶はすませたものの、どうご近所づき合いを始めればよいのかとまどっていた二宮夫妻。地域にとけ込むきっかけは『お焚き上げ』だったという。

このあたりの弁財天では、年に一度『お焚き上げ』という行事が行われる。近くの神社から神官が来て、名前と願いごとを書いた人型のお札を燃やす祭りだ。この祭りで夫妻は、近隣以外の地域の方とはじめて対面したという。

「親切に教えていただき、おつき合いがその後だんだん親しくなりました。半農半Xを実践されている方からお野菜をいただきたり、こちらも実家から届いた果物をお渡したり。マンション住まいのときにはなかった、あたたかい関係がここ京都には生きているんです」

Data

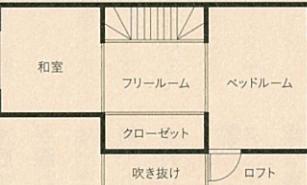
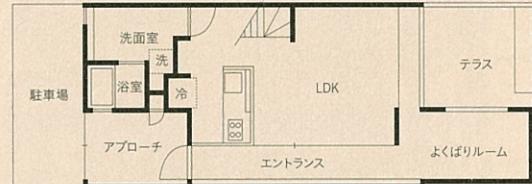
築年数：不詳

敷地面積：77.8m²

建物面積：(1F) 44.51m² (2F) 30.18m² (延べ) 74.69m²

購入価格：3,380万円

入居年数：7か月



リノベポイント！

リノベーションを担当した八清の浜田真以子さん

骨董市で有名な北野天満宮付近は、歴史ある建物や商店街と新しい店舗が共存していてアクティブな方にぴったりの地域です。なので、この家はあれもしたいこれもしたい！という『よくばり』な女性をイメージしてつくりました。限られたスペースのなかに、家主が自由に発想して使えるスペースとなるべくたくさん設けました。また、玄関から土間につづく敷居の段差を低くしたり、部屋同士の仕切りをなくし家中につながりをもたせました。仕切りがないことで、その後のリノベーションもしやすくなっています。

